第４回目授業

まずは、前回の課題の和訳例を示していきます。

(Lesson 2) リーディング

10ページの1行目から11ページの2行目まで

　ほとんどのアメリカ人は生まれたとき、姓に付随するファーストネームとミドルネームが与えられる。(エドガー・アラン・ポーとルイザ・メイ・オルコットはアメリカ文学からの二つの例です。)ミドルネームは、一種の2番目のファーストネームです。ミドルネームは、祖父母やほかの優しい親戚に敬意を表すためにしばしば与えられ、必要不可欠というよりも装飾のためというものです。私たちにとって最も重要なものは、ファーストネームと姓です――生活の業務を行うために私たちが使う名前です。

　アメリカ人が初めて誰かと合うとき、私たちはファーストネームと姓を使って自己紹介します。「こんにちは、私はロバート・スミスです。はじめまして。」しかし、いったん自己紹介が終わると、私たちはすぐに、ファーストネームあるいは短縮形さえ使ってお互いを呼び始めます。「どうぞ、ロバートと呼んでください。」なぜでしょうか。一つの理由は、アメリカ人は、ファーストネームを使うことはより親しみやすく、そしてより形式張らないと感じることです。私たちは、ファーストネームで呼び合う仲であることが好きです。

　もうひとつの理由は、ファーストネームを使うことは話者の間で社会的な地位の明白な違いがないことを暗示しています。そのことは、私たちにお互いにより心地よく感じさせ、より平等のように感じさせます。日本人と違い、私たちは通常お互いに肩書をつけません。(もちろん、フォーマルな状況では、たとえば大学の教員をジョーンズ教授、かかりつけ医をドクター・ウィルソンと呼びます。)私が初めて日本に到着したとき、誰もが姓のあとに肩書を持っているように思えたことに驚きました。私の日本語の先生は森先生でした。隣人は田中さんでした。上司は寺田部長でした。バスケットボール部の友人は単に先輩と呼ばれ、まったく名前がついていませんでした。そのことを考えたとき、私はどの人のファーストネームを知らないことに気づきました。

　なぜ日本でそのような肩書がとても大切なのか、私には正確にはわかりませんが、社会における地位についての長年続いている考え方と何か関係があると私は思います。アメリカでは、同じ伝統を持っていません。民主主義と個人主義についての私たちの考え方は、年齢、地位、あるいは階級にかかわらず平等に扱われること好むことを意味しています。そのことはまた、私たちがファーストネームで呼び合う仲であることが好きな理由です。

今回は、(Lesson 2) 1１ページから1２ページまでの練習問題と(Lesson 3) 1４ページ1行目から１２行目までのリーディングまで進みます。

[課題]

下の注を参考にして(Lesson 2) 1１ページから1２ページまでの練習問題の解答と(Lesson 3) 1４ページ1行目から１４行目までのリーディングの和訳を書き、解答欄をレポート機能を使って６月４日までに提出しなさい。

（注）

1行目 have in common: 共通に持つ

2行目 depending on ~: ～次第で

3行目 while: 一方

7行目 whether A or B: AであってもBであっても

8行目 not all of us: （部分否定）私たちはみんな～とは限らない

10行目 live: 生で、ライブで

以上